

あ ゆ ち
Ayuuchi
[No.88/2021.1]



「音について」 田口友里衣さん作

岩崎城



日進市のシンボルとして親しまれている、岩崎城。
戦国時代、戦略上において重要拠点の一つであったと言われている。
岩崎城を舞台にどのような物語があったのだろうか。
岩崎城歴史記念館館長の村田信彦さんにお話を伺いました。

戦略拠点として重要視された城

時代は、勢力争いが頻繁に行われていた戦国の世。織田信長の父・織田信秀は、岩崎を含む尾張東部の一部に進出していた。そして三河では、徳川家康の祖父・松平清康が、尾張への勢力拡大を企てていた。岩崎城は、明確ではないが十六世紀の

初め頃、信秀が松平氏に対する備えの拠点として築城したのではないかと言われている。実際に家臣の荒川頼宗を岩崎城に配置。清康の尾張侵攻に備えたが、享禄二（一五二九）年に攻め落とされている。拳母街道や伊保街道などが通る、岩崎・尾張国と三河国の国境地帯として、織田氏、松平氏ともに重要な地として考えられていたようだ。

歴史上最も注目された岩崎城の戦い

岩崎城で繰り広げられた戦は、三つある。記録上、最初に登場する信秀と清康が戦った『岩崎の戦い』。清康の死後、岩崎城の城主となった本家の丹羽氏と、反旗を翻した分家・藤島城の丹羽氏が戦った『横山の戦い』。そして、岩崎城が歴史上で最も注目されている『岩崎城の戦い』。小牧・長久手の戦いでの一戦だ。

織田信長の死後、息子の信雄は、織田家中で力をつけた羽柴秀吉に不満を抱いていた。そこで、信長と同盟を結んでいた徳川家康に援軍を依頼。織田・徳川連合軍と羽柴軍が戦う、小牧・長久手の戦いが始まる。織田・徳川連合軍は小牧山、羽柴軍は犬山の楽田に本陣を配置。両軍とも戦上手なため、「先に動いたら負け」と思い、膠着状態が続いていた。

この状況を打開しようとしたのが、池田恒興。『三河中入り作戦』を立て、岡崎城を攻めることで、家康を小牧山から引き出し、戦を有利に展開させようとした。当時、岩崎城を守っていたのは、城主である丹羽氏次の弟、十六歳の氏重。氏次は徳川軍について小牧山にいたため、氏重が留守を預かっていた。

恒興率いる池田軍を岡崎城へ向かわせてはいけないと思った氏重は、岩崎城付近を通りかかった時に攻撃を仕掛ける。攻撃を受けた恒興は、約六千の兵を伴って岩崎城を攻撃。岩崎城を守る城兵はわずか三百ほどであった。兵と言っても、ほとんどが村の農民や商人。必死に戦うが、氏重を含む全員が討ち死にってしまう。四月九日未明、数時間の出来事だった。

その頃、長久手にて三河中入り部隊に追いついた徳川軍は、引き返してきた池田軍と戦い、勝利を収める。家康は、三河中入りを阻止し、長久手で勝利できたのは、氏重らの足止めによるものと功績を称え、非常に喜んだと伝えられている。

つた。岩崎城には、守山崩れで松平清康が亡くなつて空き城になっていた天文七（一五三八）年頃に、丹羽氏清が入城。初代城主となる。

丹羽氏は桶狭間の戦い後に、松平元康（後の徳川家康）と同盟を結んだ。その後、松平氏と織田氏の間で同盟が結ばれたため、織田氏とも手を結んだ。以後、信長の天下統一に従っていくことになる。

丹羽氏の中で最も有名なものは、岩崎城主三代目・四代目の、氏勝・氏次親子だ。姉川の戦いや長篠の戦いなど有名な戦にも参戦。信長の一代記『信長公記』にも登場している。

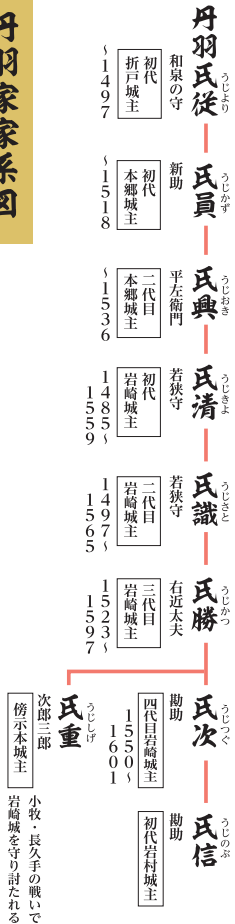


だが、岩崎城の戦いでの氏重も忘れてはならない。この戦いの功績があったからこそ、氏次

特集

特集

丹羽家家系図



見晴らしのよい平山城

岩崎城は、丘陵の先端部に築かれた平山城。三重、四重の空堀や土塁に囲まれた、複数の「曲輪」で展開されていることが、『愛知郡岩崎村古城絵図』よりわかる。お城は基本的には防御施設だ。岩崎城も、空堀や土塁、馬出、櫓台が設けられ、

知っておきたい お城用語

ひらやましろ 平山城

小高い山や丘と、周囲の平地を利用して築かれた城。

やましろ 山城

山の頂上に築かれた城。

ひらしろ 平城

平野部に築かれた城。

くるわ 曲輪

堀や土塁、石垣で囲まれた城内の空間。「郭」とも書く。

うまだし 馬出

虎口を守るために設置された、兵や馬が滞在する広い空間。

やぐら 櫓

土塁や石垣の上に建てられる、木造建築物。見張り台や武器庫として使われていた。

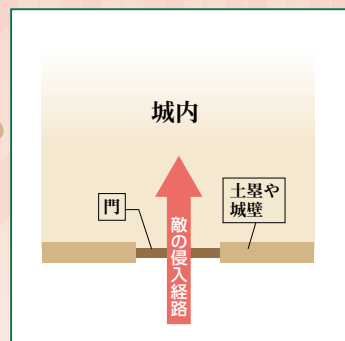
ほり 堀

人工的に掘られた防御施設。水が引かれた「水堀」と、引かれていない「空堀」がある。

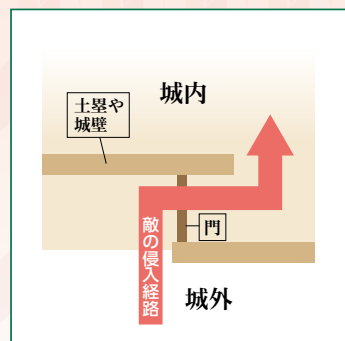
どろい 土塁

堀を掘った時の土を盛って造られる、防御施設。

【虎口の種類】



ひらいりこぐち
平入虎口
城内へ、まっすぐ入ることができる基本的な形。



くいちがいこぐち
喰違虎口
入口の前に土塁や石垣を配置し、城内への通りを屈折させて、まっすぐ進めないようにした形。

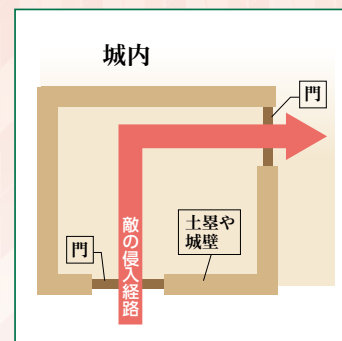
虎口とは、城郭の入口のこと。敵が最初に攻め入る場所であり、お城を守る上で最も重要な場所だ。一気に敵が入ってこれないよう、お城によって様々な工夫が凝らされていた。



お話を伺った岩崎城歴史記念館館長
村田信彦さん

虎口をチェックしてみよう

お城めぐりをもっと楽しむために！



ますがなこぐち
枡形虎口
二か所配置された虎口の前に、方形の空間をつくり、敵を囲い込む形。

虎口の位置を確かめる事で、そのお城の守備と形態が見えてくるかもしれない。

岩崎城址公園

日進市岩崎町市場67

岩崎城歴史記念館

TEL 0561-73-8825

●開館時間：午前9時～午後5時

(入館は4時30分まで)

●休館日：毎週月曜日(祝日・振替休日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月4日)

●観覧料：無料

イベントなど詳細についてはコチラ

<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo/>



城内をめぐるみよう！

岩崎城には、空堀や土塁、櫓台などの遺構が遺っている。

「もし城主だったら？」

「もし兵士だったら？」

「なぜここに建てたんだろう？」

と、いろいろイメージしながら、戦国の名残りを楽しむのも一興だ。

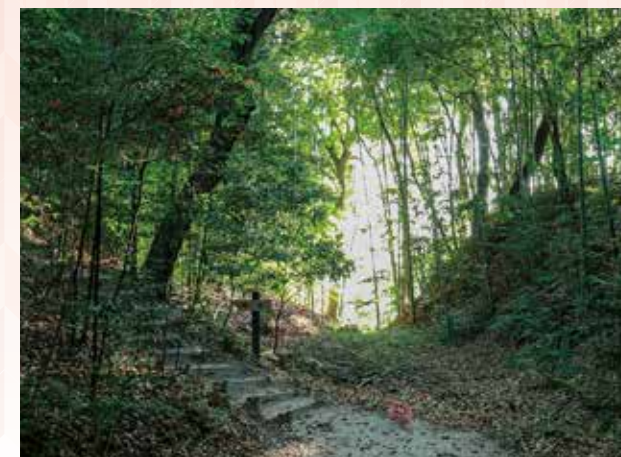
気分は
戦国時代！

岩崎城は、関ヶ原の戦い(慶長五(一六〇〇)年)後に廃城となる。近隣の村人の畑となっていた江戸時代、城山は「オテンシ」と呼ばれ、岩崎の人々に大切に思われていたようだ。現在は、模擬天守と岩崎城歴史記念館が建ち、城址公園として親しまれている。

容易に攻め込まれないための工夫が随所に施されている。
丹羽氏がここに住んでいたかどうかは定かではなく、戦の時に使用する砦の意味合いが強かったようだ。



土塁 空堀を掘った時に人の手で積み上げられた盛土。



空堀 幅約十メートル、深さ約四メートルの空堀。一部、堀底に降りることもできる。



馬出 兵や馬が常駐した広い空間。現在は庭園として整備されている。



櫓台

城内で一番高い場所。現在は木が生い茂っているが、当時は何もなく、見晴らしが良かったのだろう。
丹羽家の末裔・丹羽精五郎らが建てた碑。徳川家康に忠義を尽くしたことを表す「表忠義」が刻まれている。
この文字は、十五代將軍徳川慶喜によるもの。



「ご縁があつて、小牧商工会議所や小牧法人会など、地域を中心いろいろな活動に携わらせていただいています。」

特に小牧法人会で一生懸命に取り組んでいるのが、納税教育です。『税金のない社会は、どうなんだろう』という寸劇を市民祭りで披露し、子供達に税金の大切さを伝えています。税金は「取られる」という気持ちがないわけではないですけども（笑）。自分達が税金を払って社会をつくっているということを、一緒に勉強させてもらっています。

また、小牧商工会議所の関連で言うところ、二年後の開業を目標とする、小牧ハイウェイオアシス事業に携わっています。これはサービスエリアですが、小牧をはじめ、各地域の特産品を集めて、道の駅的な要素をプラスしたいと考えています。小牧には桃やえび芋、名古屋コーチンなどの特産品がいろいろありますから。子供達が、地元はもちろん、地域の食文化や文化に触れられる場所になればいいですよ。そして、「地元のが好き」と言えるようになるれば、素晴らしいことだなと思います。

僕が好きな地元の食べ物、里芋の煮つこるがしと十六ささげ。里芋はどこにでも



ありますが、生まれ育った大口町では地芋と言います。おいしいんですよ。十六ささげは、この地域の野菜で、シャキシャキ感が好きです。高校・大学は東京にいて絶対食べられなかったもので、戻って来ると必ず食べたくなる好物でした。

食べることは好きです（笑）。食事は毎日いたたかなければ生き続けることはできない宿命で、最も大事なことですからね。

今、なごやめしが流行っていますが、僕の子供の頃とはちよつと違うかな。手羽先はなかったし、ひつまぶしもメジャーではなかった。時代とともに新しい名物が生まれて加わり、変わっていくことはいいことです。ただ、昔からある郷土料理も、ずっと大切に受け継がれてほしいですね。その土地の食材や調味料を使い、土地にあった調理法で作られた料理は、その地域の食文化になりますので。先人たちの工夫や想いを受け継ぐという意味でも、大切にしていきたいと思っています。

想いを継ぐという意味では、大口町の五条川の桜並木には、すごく想い入れがあり

ます。あの桜並木は、祖父が植えたものです。「桜の木の下にごさを敷いて、田楽でも食べながら花見をしてほしい」と言つて、河川全体に植えた、父から聞いています。実際に植えるまでに、いろいろすつたもんだがあつたようですが（笑）。

桜を植えたのは祖父ですが、下草を刈り、育て上げてくださったのは、地元の皆さんです。僕にとっては「おじいさんの木」であり、それぞれの家では「家のおじいさんが、おばあさんが育てた木」となっていると思います。今、老木になった当初の桜を、新種の『五条川観悦桜』に植え替えています。観悦桜は、祖父が植えたソメイヨシノと大口町に昔からある山桜を掛け合わせたものです。これも、たくさんの方の想いが繋がって、実現できたのだと思います。一つの地域の文化と言いますが、大切にしたいと思っています。それが、本当にありがたいですね。

僕は、すべてにおいて巡り合わせがあると思つています。人と出会い、いろいろなことに携われるのは、偶然のようで、巡り合わせによる必然性だと。人のつながりは大切なことです。人は、一人で生きていくことはできないですから。

そのことに改めて気付かされた出来事が、十三年前にありました。家族で御嶽

山に登った時のことです。宿泊した山小屋で、「自分だけの力で登ってきたから、頂上の祠に手を合わせる気にはなれない」と言われる方がいました。その言葉を聞いた時、改めて思つたんです。山道を整備してくれる人、休憩できる山小屋を営んでくれる人、一緒に登ってくれる人など、たくさんの方々の力があつて初めて頂上できるのだと。そういうものすべてを含めて、感謝の気持ちで、僕は「ありがとう。またよろしくお願いします」と手を合わせているのだと思いました。もし宿泊しなければ、その言葉は聞けず、改めて考えることもなかったでしょう。これも巡り合わせだなと思ひましたね。

文化的なことはよくわかりませんが、子供の頃から大好きで観ている相撲は、文化です。土俵入や、立ち会いまでの流れ、力士や行司の姿など、文化的側面が残るスポーツなんです。呼び上げて、太鼓を叩いて、気が上がっていく、あの雰囲気を感じるのが好きで。だから観戦ではなく、見物なんです（笑）。ある種、芝居見物にいくような感じですね。勝敗も大切ですけど、日本の文化として大切にしていきたい部分は残して欲しいと思います。相撲に限らずですけどね。――談――



昔からある日本文化を大切に受け継いでいきたいです。

社本光永

（福玉精穀倉庫株式会社取締役社長
愛銀教育文化財団評議員）

■社本光永 プロフィール

1959年、大口町生まれ。慶應義塾大学法学部卒。1983年、辰巳倉庫株式会社（現 株式会社ヤマタネ）に就職。1986年に名古屋に戻り、家業の福玉精穀倉庫株式会社と、福玉株式社の取締役に就任。現在は、両企業と、株式会社オアシス小牧の代表取締役社長を務める。その他、松江市観光大使や裏千家の愛知第三支部長など、ご縁を大切にしながら様々な役を担い、積極的に活動している。好きな言葉は、報恩感謝と一生懸命。

「カラスは二種類いるということを知って、刺激を受けました」

自然豊かな岡崎市の生平小学校に赴任して四年目の教師、伊奈良晃さん。鳥という、それまでまったく知らなかった世界を、愛鳥活動を通して子供達と一緒に学ぶ面白さを話してくれた。

学校の裏山では、ヒヨドリ、シジュウカラ、ジョウビタキなど一年を通して約八十種類の野鳥と出会える。

「ただ、最近は裏山に竹林が急激に拡大したため、鳥が食べる土壌生物が育たず、鳥が寄つてきにくい環境になってきています」

現在、裏山にビオトープ「バードピア生平」を建設中。環境問題と向き合いながら、子供達と一緒にさまざまな愛鳥活動に取り組んでいる。

「ツバメを見て、「春が来た」という子供の言葉を聞いた時、鳥で季節を感じられるつていいなと思いましたね」

様々な鳥を身近に感じられるからこそその感覚だろう。

だが、空をなかなか見上げる余裕のない現代。伊奈さんが赴任した当時、生平小学校でずっと愛鳥活動をリードしてきた愛鳥



委員会はすでに廃止されており、子供達の鳥離れが顕著になっていた。そんな状況を憂い、伊奈さんは二〇一八年愛鳥委員会を復活させた。

まず、いかに子供達に鳥を好きになってもらうか。探鳥会、ウォッチングカードや探鳥ガイドの作成、鳥の生息調査など思いつくことはすべて行なった。結果、最初は興味のなかった子供も活動に意欲的になり、多くの実績を積み重ねることができたのだという。

活動は学校内だけでは終わらない。地域ともつながり始めている。きっかけは、子供達がセキレイの分布調査の協力を、地域の老人会の方々にお願いしたことによる。

「子供達が、よくそこに気づいたと感心しました。また老人会の方から、「子供達と触れあえるのが何よりうれしい。背筋がしゃんとした」という声を聞いた時は、うれしかったですね」

愛鳥活動が『学校文化』から『地域文化』になることをめざして——。伊奈さんと子供達は今日も空を見上げながら、鳥が結ぶ縁を楽しく広げていく。



空を見上げて、鳥と出会おう！ 愛鳥活動を地域の文化に。

地域文化としての普及を目指す愛鳥活動

伊奈良晃さん

第30回助成（個人）

生平小学校で教務主任・研究主任を務める。前任校では書写や小学校の英語を研究。生平小学校にて、初めて愛鳥活動に携わる。愛鳥委員会を中心に活動し、月2回の委員会、年2回の発表会と年4回の新聞発行などを実施。全国野生生物保護実績発表大会などでも活動を発表し実績をあげている。現在建設中の『バードピア生平』が、ゆくゆくは地域の人々が自然と共生できる場所になることをめざす。空を見上げれば鳥がいる素晴らしい環境を守り伝えていくために、地域とのつながりを大切にしながら日々奮闘中。

名古屋でもっとコンテンポラリーダンスを！を合言葉に、名古屋を中心に活動中のナゴコン。活動の第一歩となった作品公募型の公演『Grow!』を始め、大人や子供向けのワークショップなど、様々なイベントの企画・運営を行っている。

コンテンポラリーダンスとは、自由に身体を使って表現するダンスだ。難しそうに思えるが、誰でも気軽に踊れたりもする。

「日常の動きや、自分の身体の反応もダンスにしていけることができるんですよ」

と話してくれたメンバーの渡邊智美さん。例えば歩き方。ゆっくり、速く、重たく、静かなど、歩き方にイメージをつけるだけで動きが変わり、踊っているように見えてくる。考

え、想像することで生まれる動きが、その人の個性となり、ダンスになる。

小学生と中学生を対象に開催した『ダンスに行こう!』では、誰でもできる動きを採り入れて、一つの作品を創り上げた。練習中、お互いのダンスを見て感想を言い合う時に、子供達の見る力にとっても驚いたという。

「みんな、すごく良いところを見つけるの



撮影：永瀬尊

が上手なんです。私たちでも気づかないくらいのところを。逆に、『そこが、そんなに風に見えるんだ』っていう発見もありました。素直な目で見ると、良いところに目がいくんだなって思いましたね」

コンテンポラリーダンスに正解はない。自分がダメだと思うところでも、人には良く見えていたりもする。だからだろう。否定をしなくなった部分も、受け入れやすくなるのだと言う。自然に自分を見つめることができ、価値観を広げていけるのも、魅力の一つなのだろう。

「ぼーっとでもいいから、いろいろな作品をたくさん観てほしい。その中で自分の波長に合う、好きな作品に出会えたときは、今までの価値観が変わるくらい衝撃を受けると思います」

まだコンテンポラリーダンスに触れたことのない人には、触れられる機会を。ダンス好きな人には、発表できる場を。これからも、生活の中で無理なくダンスが楽しめるよう、いろいろチャレンジしていくナゴコンの活動に注目していきたい。

撮影：永瀬尊



日常の動きもダンスに！ 自由な表現で楽しく踊りを創りだす。

コンテンポラリーダンスの公演、ワークショップの企画運営

ナゴコン

第30回助成（団体）

2014年に設立。メンバーは現在5名。それぞれ仕事や家庭と両立しながら、ナゴコンの活動に携わっている。現在、緑文化小劇場の支援を受け、名古屋文化事業団のYouTubeにて動画や映像作品を配信。愛知県で活動する様々なダンサーと一緒に制作した動画、家庭で気軽に楽しめるダンス「一緒に踊ろう」や、「ダンスに行こう!」に参加した2名の子供達と一緒に創った映像作品「おどる劇場」が公開中。

渡邊智美さん



2020年 9月(追加分)

- 藤原 葵さん(絵画制作) 第30回助成・個人
個展「Finding FireFlies」[gallery N 神田社宅(東京都千代田区)]
- 愛知の工芸2020出展(古川美術館・分館為三郎記念館(名古屋市千種区))
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人
大橋敏彦さん(金工) 第3回助成・個人
森 克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人
- 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
「Visions Creations Dissidentes」出典
[MuSee du la Creation Franche(フランス・ペーグル市)]

2020年 10月

- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
ミュージカル「あらしのよるに」[名古屋市青少年文化センター
アートピアホール(名古屋市中区)]
- 中谷ゆうこさん(美術制作) 第25回助成・個人
パティオ入会地ギャラリー展 特別展「Oh!縁展」にて、イベント
「粘土で中谷ゆうこの渦巻きの作品に参加しよう」を開催
[パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)]
- 中谷ゆうこ展「希望的観測」開催
[ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)]
- 古井戸芳生さん(現代美術) 第12回助成・個人
Thick Painting ーあつみのある絵画ー [兜屋画廊(東京・銀座)]
- 名知聡子さん(現代絵画) 第27回助成・個人
展覧会「顔」に出展(新作含む3点)
[小山登美夫ギャラリー(東京・六本木)]
- NPO 法人 むすめかぶき(伝統芸能) 第31回助成・団体
令和2年度文化庁伝統文化親子教室事業「子どもと伝統
芸能」[中部邦楽教室(名古屋市中区)、東山荘(名古屋
市瑞穂区)]
- 山田佐多子さん(子供の五感に響く音楽提供) 第30回助成・個人
赤ちゃんと一緒にたのしむコンサート「こねこのだいぼうけん」
を制作[東文化小劇場(名古屋市中区)他]
- 松井真人さん(演劇) 第29回助成・個人
刈馬演劇設計社「異邦人の庭」プロデュース
[G/PIT(名古屋市中区)]

- 葉栗 里さん(彫刻) 第25回助成・個人
個展 葉栗里「たまゆらの」
[ジルドールギャラリー(名古屋市中区)]

- 愛知県立成章高等学校 第31回援助・高校生
愛知県高等学校弓道選抜大会 東三河支部予選会
男子団体の部・女子個人の部で優勝

- 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
「MONO NO AWARE(An Empathy Toward Things)」
Japan at Cavin-Morris[Cavin-Morris Gallery(アメリカ・ニューヨーク)]

2020年 11月

- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
テラレーションウィーク「語人 サヤ佳語りの会」
[アトリエ柿本(豊田市)]
- 名知聡子さん(現代絵画) 第27回助成・個人
イベント出演「Art TALK」～アートを話そう～
[青少年文化センター・セブンスカフェ(名古屋市中区)]
- 新野素子さん(染色) 第2回助成・個人
新野素子 染色展(松坂屋名古屋店美術画廊(名古屋市中区))

仲間達の近況メモ

- 劇団 天白月夜 第31回助成・団体
「広くてしょっぱい水たまり」
てんぱく文化祭2020に出演(天白文化小劇場(名古屋市中区))
ナゴヤ大文化まつりに出演
[日本特殊陶業市民会館ビレッジホール(名古屋市中区)]
- 神村泰代さん(綿を使った作品制作) 第31回助成・個人
長者町コッソプロジェクト「町を紡ぐ景色を織る日々を縫う」
[長者町コッソビルグラウンド(名古屋市中区)]

2020年 12月

- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体
第91回定期演奏会[新城文化会館大ホール(新城市)]
- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
「ブンナよ、木からおいてこい」
[愛知県芸術劇場小ホール(名古屋市中区)]
- 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
西村一成展「始まりのイメージ」
[ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)]
- 伊藤美由紀さん(作曲、コンサート自主企画) 第31回助成・個人
ニッフェアル第16回公演「声の行方・言葉の力」
[愛知県芸術劇場中リハーサル室(名古屋市中区)]

書籍・会報誌等の発行

- はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体
9・11月…「はんだ郷土史だより」第92・93号
- まつり同好会 第25回助成・団体
9・11月…「まつり通信」609・610号発行
- 守山リス研究会 第19回助成・団体
9～12月…「リス研通信」NO.5078～5157発行
- 長久手市郷土史研究会 第13回助成・団体
9月…「胡牀石」第56号発行
- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
10～12月…「江南郷土史研究会会報」500～502号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
10～12月…郷土文芸誌「駒来」第585～587号発行
- 野田史料館 第1回助成・団体
10月…「野田史料館報」第158号発行
- 愛知歴史研究会 第7回助成・団体
10月…「あいち歴研会誌」第167号発行
- 名古屋郷土文化会 第7回助成・団体
11月…「郷土文化」第75巻 第1号発行
- 東海化石研究会 第31回助成・団体
12月…東海化石研究会創立50周年記念「日本のジュラ紀
アンモナイト図鑑」発刊
- ため池の自然研究会 第26回助成・団体
12月…「ため池の自然」No.61 発行
- 愛知女性史研究会 第25回助成・団体
12月…「愛知近現代女性史 人名辞典Ⅱ」発行
- 小垣江町郷土の歴史研究会 第13回助成・団体
12月…「小垣江町郷土の歴史研究会30年史」発行

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

さんを始め、話を伺った部員達は声を揃える。「練習はつらいことが多いです。でも、励まし合える仲間がいるから頑張れます」自分のできないところと真摯に向き合い、毎日こつこつ練習に励む。その姿は、まるで職人のようだ。そして合奏の練習では、いい緊張感の中、それぞれの研ぎ澄まされた音

と、OGの小林三佐子校長先生。部員数百二十人。部長の穴原陽菜さんを始め、話を伺った部員達は声を揃える。「練習はつらいことが多いです。でも、励まし合える仲間がいるから頑張れます」自分のできないところと真摯に向き合い、毎日こつこつ練習に励む。その姿は、まるで職人のようだ。そして合奏の練習では、いい緊張感の中、それぞれの研ぎ澄まされた音



二〇一九年、光ブラスの音楽は海外でも評価を受けている。卓越した音楽性を持つ高校吹奏楽部に贈られる国際賞『サドラー・フラッグ・オブ・オナー(サドラー賞)』を、日本で初めて受賞したのだ。同じ時期に、アメリカのシカゴで行われた吹奏楽の祭典『ミッドウエスト・クリニック』に参加し、一時間のコンサートプログラムを演奏。約三千人の観客から拍手喝采を浴びた。

の心につながるものがあると実感できました。拍手がもたらえた瞬間、全てがOKになります」光ブラスの音楽を違う国の人々にも聴いてもらえた喜びに、部員達は目を輝かせた。繊細に緻密に作り上げられる光ブラスの音色は、これからも「音楽が好き！」という純粹な思いを伝え続けていく。



“音楽が好き!”があふれ出る、緻密で美しい光ブラスの演奏。

吹奏楽部 光ヶ丘女子高等学校 第28回援助(高校生)

1969年創部。現在、顧問の日野謙太郎教頭先生を含む5名で指導。2020年に動画審査で行われた第26回日本音楽合奏コンテストの全国大会に参加。最優秀賞、審査員特別賞、そして動画配信を観た観客が選ぶ観客投票最多賞を受賞する。毎年、地域の依頼演奏のリクエストも多い。コロナ禍の昨年は、YouTubeなどに演奏動画を配信。光ブラスの音楽をいろいろな人に楽しんでもらえるよう、新しいチャレンジにも取り組んでいる。

全国大会常連校である、光ヶ丘女子高等学校の吹奏楽部『光ブラス』。昨年はコロナ禍で、コンクールが中止になるなど思うように活動ができなかった。そんな中で部員達は、自分達にできることを試行錯誤し行ってきた。その一つが、医療従事者の方々への感謝の気持ちを込めて配信された、学校のオリジナル曲『いつしよに』の演奏。各家

が重なっていく。「一人ひとりが自分に与えられた責任を果たした時、パワーは何倍にもなつて素晴らしい音楽が生まれるのだと思います」やはりOGで副顧問の鶴田咲子先生は、部員達の努力がもたらす素晴らしさを教えてくれた。



山本葉月さん 穴原陽菜さん 柴田ちはやさん 早川実音さん
穴原部長を中心に部をまとめているスタッフ

副顧問
鶴田咲子 先生

校長
小林三佐子 先生



編・集・後・記

お城と言えば、天守閣や石垣があって、お殿様が住む場所というイメージを、勝手に抱いていました。実際は戦の拠点となる場所で、どちらかというと砦のようなものが多かったようです。

今回の特集で訪れた岩崎城でお話を伺い、お城や城跡の見かたが変わりました。いろいろな楽しみ方があるのだなと。お城が持つ物語を想像しながら、お城を巡ってみようと思いました。

表・紙・作・品



「音について」縦800×横600×奥行き300 mm
バーナーワーク(素材:ガラス ワイヤー ホルン)
田口友里衣さん作(第31回助成)

●作者の言葉

1cm程度の大きさのガラスの粒を800度の炎で溶かし、ガラスが熱いうちにワイヤーを溶接します。そのワイヤーを編み込むことで造形しています。本来なら音が聴こえてくる様子は可視化できません。溢れて流れ落ちるガラスの粒を音楽に見立てて作品を見る人が、それぞれどんな音楽が流れているのかを想像させる作品です。



あゆち第88号 ● 2021年1月

発行:公益財団法人 愛銀教育文化財団

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号

愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)

